

YKKグループがこれまで発展を続けてきた源。
そこには「善の巡環」という揺るぎない精神があります。

他人の利益を図らずして、自らの繁栄はない。私たちはこれを「善の巡環」と名付けて創業以来、信念を貫き、事業を営んでいます。絶えず創意工夫に努め、世の中に新しい価値をもたらさなければならぬ。それが巡り巡って私たちのもとに還ってくる。この事業哲学を世界に拡げていくことで、ここまで大きく成長を遂げてきました。

私たちYKKグループが常に共有する考え方。
たとえば、

「失敗しても成功せよ」：失敗してもいいのです。高い目標を掲げてチャレンジすれば、必ず失敗はついてくる。より品質に優れたファスナーを生み出すために、それまで海外製に依存していた生産機械を自ら開発しようとした時もそうでした。絶望的な失敗を繰り返しながら、それでもあきらめずに挑戦し続けた結果、YKKのモノづくりが一気に進化したのです。大切なのは、自らを信じてチャレンジし続けること。最後に結果が出ればいい。失敗しても成功せよ。YKKグループに脈々と受け継がれている精神です。

「土地っ子になれ」：私たちは海外に進出する時、現地の安い人件費を利用してコストダウンを図ろうという発想はありません。その国に根付き、現地のマーケットに応じた事業に知恵を絞り、ビジネスを伸ばしていく。得られた利益は現地に還元する。そしてさらなる成長を果たすために、現地の優秀な人材に選んでいただけるような企業を目指す。まさに「土地っ子」になるのです。

「川上遡上主義」：YKKグループの歴史は、「より優れた製品を世の中に送り出したい」という熱い気持ちの積み重ねでした。製造機械を自社開発したのもそう。金型まで自ら手がけるようになったこともそう。そして、さらには素材や原材料の開発まで…品質や生産性を、自ら理想に掲げるレベルまで向上させるためには、製品から原材料まで、すなわち川上まで遡ってすべてを手がけなければ、到底果たすことはできない。そのための投資は惜しまない。このこだわりこそ、YKKグループのモノづくりの強さの源泉なのです。

「野戦の一刀流」：理論や定石を学ぶことは大切です。しかし机上の知恵だけでは、いざ壁にぶつかった時、それを突き破るような創意工夫は生まれません。道場の剣法ではなく、どんなときにも臨機応変に対応できる野戦で鍛えた一刀流の達人になること。それがYKKグループの人材観です。実戦の中でさまざまな経験を重ねれば、そこから真に活きた知恵が生まれてくる。常識にとらわれない問題解決法は、「野戦」の中から生まれてくる。YKKグループが若いうちから大きな仕事を任せるのは、そんな思想があるからなのです。